

令和元年度医療情報の理解促進に関する研修会のテーマについて

1 概要

都民が医療を受けるに当たり、主体的に選択・判断するための基盤となる医療情報の正しい理解を進め、また、患者(都民)と医療従事者のより良い関係の構築を図るため、医療に関する基本的な知識や関係する制度、適切な受診方法等について説明・助言を行い、医療に関する理解を促進する役割を担う人材を養成する。

2 開催日時 令和2年 1月～3月頃を予定

3 研修会(案)

(1) 患者と医療者の向き合い方～患者に寄り添うコミュニケーションを学ぶ～

患者さんと向き合う際、医療者には患者さんの気持ちに配慮したコミュニケーションが求められる。患者さんが求めていることを傾聴により的確に把握し、患者さんの置かれた状況や立場を考えながら、患者さんに寄り添う医療を提供するにはどのように対応すればよいか、ロールプレイ等を取り入れ、体験しながら学んでいく内容とする。

(2) 患者と進めるチーム医療

チーム医療とは、患者さんにとって望ましい医療を実現するために、医療従事者がお互いに対等の立場から連携して活動することとされているが、患者さん自身が主体性を持って積極的にチームに参加してもらうことが重要である。患者参画の医療を充実させるために、患者さんが意見や希望を言える環境の作り方から、専門職間の連携の進め方について、事例を通して学んでいく内容とする。

(参考:平成26～30年度開催実績)

	開催日時	内容	講師	参加人数
26 年度	①10月9日(木) 14時～17時	■患者の目線で考える医療コミュニケーション		247名 (定員250名)
		①相談から見える患者のキモチ	医療政策部医療安全課指導係主任	
		②患者・家族の理解と納得につながるコミュニケーション	東京SP(模擬患者)研究会 代表 佐伯 晴子 氏	
26 年度	②2月13日(金) 14時～17時	■医療従事者に知ってほしい認知症ケアとコミュニケーション		119名 (定員120名)
		①東京都の認知症施策について	東京都福祉保健局高齢社会対策部在宅支援課長	
		②認知症の人とのコミュニケーション	独立行政法人東京都健康長寿医療センター 看護部看護師長 白取 絹恵 氏	
27 年度	①11月25日 (水) 15時～17時	■患者・家族との対話の進め方～トラブルにならないために～ ○医療メディエーションを活用したコミュニケーションスキル	全国土木建築国民健康保険組合 総合病院 厚生中央病院 院長補佐 荒神 裕之 氏	134名 (定員120名)
	②1月28日(木) 14時半～17時	■患者とのコミュニケーション術 ○わかりやすい説明の仕方～患者の立場から～	NPO法人ささえあい医療人権センターCOML 理事長 山口 育子 氏	199名 (定員250名)
28 年度	2月15日(水) 15時～17時	■患者・家族とのトラブルを防ぐ ○円滑なコミュニケーション	早稲田大学大学院法務研究科教授 和田 仁孝 氏	262名 (定員250名)
29 年度	2月14日(水) 15時～17時	■人生の最終段階における医療とケアのあり方 ○本人・家族とともに考える意思決定	東京慈恵会医科大学附属柏病院総合診療部診療部長 三浦 靖彦氏	120名 (定員120名)
30 年度	2月8日(金) 15時～17時	■ACP(アドバンス・ケア・プランニング)のすすめ方 ○その人らしく意思決定するために	東京慈恵会医科大学附属柏病院総合診療部診療部長 三浦 靖彦氏	118名 (定員100名)